

山形市野草園だより



夏の木陰を歩く 林の中での花との出会い

春から初夏、そして、夏へと移り変わっていく野草園。散策するときも木陰が心地よくなります。木漏れ日の中で風に揺れるヒメサユリを見つけたとき、梅雨空の下で雪が積もったかのようなヤマボウシの木を見つけたとき、思わず心が躍ります。かけがえのない何かを見つけたときの、誰かと分かち合いたくなるような不思議な気持ちになってしまいます。

ゆったりとした気分で自然散策をしたり、「野草の丘」の芝生にレジャーシートを敷いてお食事したり、また、バトミントンなど持参で遊んでいたりと、思い思いの楽しみ方で、野草園を利用いただいています。

是非、本園にお出でいただき、豊かな自然の中でくつろいでほしいものです。



山形市野草園

山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

野草園は



のポイント対象施設です

6月・7月初旬の予定

◆開園時間・無休期間

- 開園期間 午前9時～午後4時30分（入園は午後4時まで）
- 無休期間 4/18（月）～6/13（月）は無休

◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期 間 野草園開園期間 4/1（金）～11/30（水）
- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与（1日1回まで）
《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週 土曜日・日曜日・祝日 1日2回実施
(ただし土曜日は、無休期間の《4/23（土）～6/10（土）》の間だけ実施)
- 時 間 ①午前10時30分～午前11時30分 ②午後1時30分～午後2時30分
- 内 容 その日の見頃の場所・見頃の植物を案内（園内、自然学習センター前集合）
- 費 用 参加費無料 《ただし入園料300円（高校生以下無料）》

◆博物館実習生募集

- 募集期間 6月30日（金）まで
- 募集人数 先着4人
- 実施期間 令和5年9月5日（火）～9月10日（日）まで
※受講を希望する学生は野草園ホームページにて「山形市野草園 博物館実習生申込要項」
をご確認ください。 ホームページ <https://www.yasouen.jp>

◆日本植物学の父・牧野富太郎博士展

- 日 時 6月1日（木）～8月31日（木） 午前9時～午後4時
- 場 所 自然学習センター展示室
- 内 容 牧野富太郎博士に関するパネルなどを展示します。

◆プランツ・ギャザリング教室

- 日 時 6月3日（土） 午前10時～正午
- 場 所 野草園自然学習センターピロティエ
- 内 容 夏に咲く花を使って花束のように寄せ植え
- 対 象 先着13人
- 持ち物 持ち帰るための袋や箱（大きさは）、エプロン、軍手など（必要な方）
- 参加費 材料代・入園料込4,300円（高校生以下4,000円）
- 申込み 終了しました。

◆テラリウム教室

- 日 時 日時6月17日（土） 午前10時～午前11時
- 場 所 野草園自然学習センターピロティエ
- 内 容 ガラス容器にコケや植物を配置して栽培
- 対 象 先着13人
- 持ち物 持ち帰るための袋や箱（大きさは）、エプロン、軍手など（必要な方）
- 参加費 材料代・入園料込2,300円（高校生以下2,000円）
- 申し込み 終了しました。

◆四季観察会(シダと初夏の植物)

- 日時 6/30(金) 午前9:30~正午
- 場所 野草園内
- 内容 シダ植物、初夏の咲いている花々を中心に案内
- 対象 先着20人
- 参加費 資料代・入園料込500円(高校生以下200円)
- 申込み 6月1日~ 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆ホタル観察会

- 日時 6月30日(金)、7月1日(土) 午後7時45分~午後9時
- 内容 ゲンジボタルやヘイケボタルの観察
- 対象 各日 10組(抽選)
- 参加費 入園料300円(高校生以下無料)
- 申込み 6月15日から18日まで、電話で野草園まで TEL023-634-4120
※ 当選者のみ、電話連絡します。

◆庭木を楽しむための剪定技術教室(第2回)

- 日時 7月8日(土) 午前9時30分~午前11時30分
- 場所 野草園内
- 内容 今年伸びた植込みの刈り込みによる樹形を整える方法を学習
- 対象 30人(抽選)
- 参加費 資料代・入園料込500円(高校生以下200円)
- 持ち物 刈り込みばさみ、軍手、手ぬぐい、水筒など
- 申込み 6月15日から18日まで、電話で野草園まで TEL023-634-4120
※ 当選者のみ、電話連絡します。

◆カフェの営業・山野草販売 (自然学習センターで販売)

- カフェやまぼうし
《営業》木曜・土曜・日曜・祝日 午前10:30~午後2:30
《メニュー》カレー、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー
- 山野草販売
《営業》土曜・日曜・祝日に販売予定(平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり)

◆開花した花等の紹介

▲野草園観察日記▲

- 野草園のホームページから観察日記・インスタグラムをご覧ください。
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます。
検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。



●● 6月の風景アルバム ●●



「野草の丘」シバとオオヤマザクラと青空



「吉林の庭」スイレンと鯉



「ひょうたんの池」鯉と少年



「スワンヒルの庭」日時計とスモークツリー



「ロックガーデン」のサンショウバラ



「ログハウス」



「中央広場」シャガ



「自然学習センター」

●●● 6月に見られる主な花 ●●●



クリンソウ(サクラソウ科)

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面はしわがたくさんあります。花が開く頃に花茎はぐんぐん伸び、紅紫色の花を5～7段輪生状に多数つけます。日本のサクラソウの間では最も背丈が高いです。クリンソウ（九輪草）は、寺院の塔の頂上部にある九つの輪の装飾（九輪）に例えて名づけられました。



ヒメシャガ (アヤメ科)

山地の林の下などに生える多年草です。草丈が20～30cm、葉先が尖る細長い葉を株立ちさせ、根茎が横に這って増えていきます。花がシャガに比べてやや小型なので、《ヒメ》がつきました。径4cm程の淡紫色の花を2～3個咲かせます。外花被片の中央は白色で、紫色の脈と黄色の斑紋があり《とさか状》の突起があります。



カキツバタ(アヤメ科)

湿地に生育する多年草です。ヒオウギアヤメやノハナショウブに先がけて咲きます。葉の幅が広く中肋（中央に通る太い葉脈）はありません。花茎の先に青紫色の花をつけ、花弁の中央基部には白色の斑紋があります。花は衣服を染めるのに利用されたため、名前の由来は「書付花（搔付花）」がなまったものといわれています。



ヒオウギアヤメ (アヤメ科)

湿った草地に生える多年草です。葉の幅はアヤメに比べて広く剣状をしています。3枚の外花被片は大きくてアヤメに似ていますが、内花被片3枚は小さく目立たず、上に立ち上がりません。葉が楡扇（ヒオウギ）に、花がアヤメに似ていることが名前の由来です。



ノハナショウブ(アヤメ科)

水湿地に生える多年草です。名前の由来は、野生のハナショウブという意味（野花菖蒲）で、全てのハナショウブの原種になっています。葉の幅が狭く、葉の中央にある葉脈が太くはっきりして筋になっていることや、外花被片の線が黄色いことでカキツバタと区別することができます。



ヒメサユリ(ユリ科)

新潟県と東北地方南西部の高山に生える多年生草本です。ササユリに似ていますが、草丈が少し低くて、雄しべが外に出ないという違いがあります。漏斗状鐘形でピンク色の花を茎の先に1～2個つけます。名前の由来はササユリに似ていて小形であるからです。別名オトメユリは、可憐さを表しています。



ゼンテイカ(ニッコウキスゲ)(ワスレグサ科)

本州の中部地方以北の山地に生える多年草で、草原に群生することがよくあります。花茎の先に黄色い花を3～4個つけます。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花で、漏斗状の鐘形です。若葉や花のつぼみはおいしいらしく、シカなどの動物も食べるようです。



オゼコウホネ(スイレン科)

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を1個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。雌しべの柱頭盤が赤いです。コウホネは黄色です。



スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名前は、「朝に花が開いて夜に閉じる」睡る蓮ということに由来します。



ヒツジグサ(スイレン科)

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8～15枚あり、長さは萼片とほぼ同じで、黄色い雄しべの葯が目立ちます。名前は末草(ヒツジグサ)で、未の刻(午後2時)頃に開くことに由来します。そして、夕方には閉じてしまいます。



ベニバナヤマシャクヤク(ボタン科)

白い花を咲かせるヤマシャクヤクは5月に見られますが、濃い紅色の花を咲かせるベニバナヤマシャクヤクは園内で6月に見ることができます。個体数も少ない上に開花期間も3日ほどなのでなかなかいい状態で見るとは困難です。絶滅危惧種になっています。



ホオノキ(モクレン科)

落葉高木で、高さは30m以上になるものもあります。葉は長さ20～40cmにもなり、倒卵状楕円形で全縁です。そして裏面は白い粉を帯びています。また、葉は互生しますが、枝先に束生し輪生状に見えます。大型で白い花が真上に向かって開花し芳香があります。花弁がらせん状に配列し、萼片と花弁の区別も明瞭ではありません。



ヤマボウシ(ミズキ科)

各地の山野に普通に自生する落葉高木で、花や葉はハナミズキに似ています。花弁のように見えるのは苞で、その中心にある淡黄緑色の小花が20～30個密集した丸いものが花序です。秋には果実が赤く熟します。丸いつぼみの集まりを坊主頭に、白い苞をその頭巾に見立てたことが名前の由来です。



チョウジソウ(キョウチクトウ科)

湿った草地に生える多年草で、茎は直立して上の方で枝分かれをします。葉は互生し披針形で先はとがります。茎の先端に多数の花をつけます。花は青紫色で下部は筒となります。上部は5裂して平らに開き、裂片は狭長楕円形です。横から見ると花の形が丁の字に似ているということが名前の由来です。



エゴノキ(エゴノキ科)

雑木林などに生えている落葉小高木です。今年伸びた小枝の先端に白い花を下向きに数個ずつ付けます。花は5裂した白い花弁で、雄しべの黄色い葯が目立ちます。枝は花でいっぱいです。花後にできる果実は毒性があります。果実が“えぐい”(あくが強いがらっぽい)味がする木ということが名前の由来です。



サラサドウダン(ツツジ科)

深山の林内や林縁、岩場に自生し、ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布しています。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。更紗のような模様が名前の由来になっています。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならず先が広がり鐘形になるところが違います。



ベニサラサドウダン(ツツジ科)

中部地方北部から東北地方南部まで分布する落葉低木です。花は鐘形で、下向きに咲き、紅色の花には濃紅色の縦の筋が入ります。サラサドウダンに比べ、花はやや小さく、色は濃いです。同じ仲間のベニドウダンは、さらに花は小粒で、色は濃くなります。



オオナルコユリ(クサスギカズラ科)

北海道から九州に分布する多年草で比較的明るい落葉林の下などに生育します。同属のナルコユリやミヤマナルコユリに比べて大形で、茎の高さが1 m程、葉の長さは30cmにも達し弓状に曲がります。細い花柄の先に、6枚の花被片が合着した筒状の花を2~4個つけ、数組が垂れ下がります。この垂れ下がる花の様子を鳴子に見立てたことが名前の由来です。



アカバナシモツケ(バラ科)

茎の先に、小さな紅色の花をたくさんつける多年草です。ひとつひとつの小花からは、多くの雄しべが長く伸びて、全体的にふわっとした感じに見えます。葉は5つから7つに深く裂け、また、鋸歯があるので、モミジの葉のような印象です。接写で撮影することがおすすめです。



ホタルブクロ(キキョウ科)

チョウチンバナ、ツリガネソウ、ホタルグサなどの沢山の方言での呼び名があります。茎の上に大きな鐘形の花をつけますが、袋状の花の中にホタルを入れて遊んだことが名前の由来といわれています。萼片のところにそり返った附属体があります。そり返らないのは“ヤマホタルブクロ”です。



ウリノキ(ミズキ科)

葉の形がウリの葉に似ていることが名前の由来といわれています。美しい白い花弁は外側に巻き込み、その真ん中の黄色い雄しべと白い雌しべが綺麗です。花後、果実は藍色に熟します。花と果実、両方の美しさを楽しむことのできるウリノキです。



ウツボグサ(シソ科)

日本各地の山野の草地に普通に見られる多年草です。うつぼ(鞆)とは、その昔、武士が矢を入れて背負った武具のことです。この植物の花穂がそれに似ていることが名前の由来です。夏の盛りには枯れてしまい、茶色くかさかさの状態になります。そんな様子から、“夏枯草(かこそう)”とも呼ばれています。枯れた姿も印象的です。



ヤナギラン(アカバナ科)

花が美しい蘭に、葉が柳に似ていることが名前の由来です。山地の日当たりのよいところに生える多年草で、山野が工事跡などで荒れると進出し木が茂ると姿を消す先駆植物です。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、下から上へ咲き上がります。夏の終わり頃には、白い綿毛を穂全体からいっぱいに出し、その様子もまた見事です。



スモークツリー(ウルシ科)

初夏に花を咲かせる雌雄異株の落葉樹木で、ヨーロッパから中国に分布します。小さな淡緑色の花を穂状にたくさん咲かせますが、雌株の花後にタネを結ばない花(不稔花)の軸の部分が長く伸びて羽毛のようになり、花穂の見え目がもふもふした感じになり、離れてみると煙のように見えます。



エゾアジサイ(アジサイ科)

北海道と本州北部及び日本海側の山地の斜面や沢沿いに生える日本固有種です。両生花の周りの装飾花の色合いが、コバルトブルーでとても美しく見えます。葉の縁に粗い鋸歯があります。ガクアジサイと似ていますが、葉に光沢がなく薄手です。見て、触って確認してみましょう。